

鑑真寂靜1250年記 commemorating the 1250 anniversary of the death of Ganjin

山本純ノ介

Portrait of

管弦楽作品

Orchestral Music

個展演奏会

by Junnosuke Yamamoto



●交響曲 鑑真寂靜1250年記

Symphony
- commemorating the 1250 anniversary of the death of Ganjin-

●華嚴の種子 (Shuji)

The seeds of Kegon for strings

●アンティフォナ・スーラ

交声曲 修羅～管弦声楽と浄瑠璃による～
Antiphona-sura テキスト構成:東龍男



指揮 ● 井上道義



浄瑠璃 ● 竹本駒之助
人間国宝



三味線 ● 鶴澤津賀寿

管弦楽 ● 新日本フィルハーモニー交響楽団 合唱 ● JAPAN CHORUS FORCE-C

Illustration by Ryoichi Ogawa

2013年10月29日[火]19時開演 東京芸術劇場コンサートホール

全指定席 S席 5,000円 A席 3,000円

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296 <http://www.geigeki.jp/t/> (パソコン) <http://www.geigeki.jp/i/t/> (携帯)
イープラス e+ <http://eplus.jp/> CNプレイガイド 0570-08-9990 東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

主催 ● 山本純ノ介 鑑真寂靜1250年記演奏会実行委員会 後援 ● (一社)日本作曲家協議会 日本現代音楽協会 アブサラス コンサートマネジメント ● ミリオンコンサート協会 03-3501-5638

2013年の個展に寄せて

私の交響曲と人の声

山本純ノ介

本年は鑑真寂靜1250年という記念の年なので、ぜひ自分の個展を開催し交響曲を発表したいと強く感じていた。

自らの管弦楽の響きを演奏で確認しながら聴けることは作家にとって至福の時。

今回演奏と同じ方々により、法顕伝交響曲が初演された時は自分もまだ若く、将来、何曲も交響曲が作曲できると錯覚していた。

交響曲を作曲する意味を自問しはじめ迷宮に。結局、西洋音楽で育った私は交響曲から離れる事は出来なかった。管弦楽を書ける環境も重要で、交響曲の作曲は自分の音楽と人生そのものであることを実感するに至り、衣は西洋でも、日本、アジアの交響曲を刻む必要があると考えた。また過去の交響作品と番号で比較する意味は希薄。むしろ、自己発揚、内的衝動の音楽作品であることが重要で、期間をおいてその作家の歩みを刻むことに妙味がある。「迦樓羅～黎明の響き～」は上記の要素を満たしていたけれど、京都市の委嘱を頂戴したので交響曲とはしなかった。

私のもう一つの柱に「人声、うた」がある。一般的なカテゴリーで言えば声楽、合唱作品。「うた」や「人の声」には個々に内在する「心」、「旋律」が彷彿とする。それを聴くのは、つまるところアイデンティティーの確認作業。合唱では近年、無伴奏合唱に惹かれ西行のテキストによる連作となっている。

そのような「人の声」への作品の想いが、アンティフォナ・スーラに至る。交じり合う声の音楽作品。「交声曲」である。浄瑠璃は人間国宝竹本駒之助師匠、三味線の鶴澤津賀寿の内在する「うた」を聴く作業から始まった。東龍男のテキスト。心病む現代の魂、義仲の怨霊が鑑真の「いろはうた」により昇華する。

山本純ノ介 ● 作曲家

音楽一家の長男として1958年に生まれる。祖父、山本直忠にピアノ、作曲の手ほどきを受ける。東京藝術大学の修士作品作曲の過程で、「音楽は崇高な祈りである」との理念に至る。在学中より、父、山本直純の影響でスタジオ録音、背景音楽の作編曲、マニピュレータ、など多方面の音楽制作を経験しながら徐々に自己の音楽観を確立。管弦楽と合唱を音楽表現の中心として作曲してきた。

毎日音楽コンクール入選、シルクロード管弦楽コンクール入賞。

平成7年9月～12月平成七年度文化庁派遣芸術家在外特別研修員として、ドイツベルリンに留学。D.シュネーベルと親交を持ち、P.エトウィッシュ、アンサンブルモデルン等のもとで、研修。ダルムシュタットにて、D.ステファニディスと共同研究。

現在、千葉大学教授、東京藝術大学非常勤講師。学会活動では日本作曲家協議会理事、日ロ音楽家協会運営委員、日本現代音楽協会会員、日本とギリシャの現代音楽による国際交流委員会運営委員長。

公式ホームページ

<http://www.miraiongaku.jp/main.html>

鑑真寂靜1250年記

山本純ノ介 管弦楽作品 個展演奏会



指揮 ● 井上道義

1946年東京生まれ。桐朋学園大学卒業。新日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督、京都市交響楽団音楽監督兼常任指揮者を歴任。これまでに、シカゴ響、ハンブルク響、ベルリン放送響、フランス国立管、ベネズエラ・シモン・ボリバル、KBS響などに登場している。2007年、「日露友好シヨスタコーヴィチ交響曲全曲演奏プロジェクト2007」、2013年4月サントペテルブルク交響楽団との日本ツアー（全国7か所）を開催し、音楽・企画の両面で大きな成功を収めた。2010年、「京都市文化功労者」、社団法人企業メセナ協議会「音もてなし賞」受賞。2007年1月よりオーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督、ならびに石川県立音楽堂アーティストティック・アドバイザーに就任。ラ・フォル・ジュルネ金沢を含む多くの実験的企画を敢行し続けている。自宅にアヒルを飼っている。

公式ホームページ

<http://www.michiyoshi-inoue.com/>



管弦楽 ● 新日本フィルハーモニー交響楽団

「一緒に音楽をやろう!」1972年、指揮者・小澤征爾のもと楽員による自主運営のオーケストラとして創立。97年よりすみだトリフォニーホールを本拠地とし、定期演奏会のほか地域に根ざした演奏活動も特徴的。音楽監督クリスティアン・アルミンク(2003年～)、Music Partner of NJPダニエル・ハーディング(10年秋～)、Conductor in Residence イング・メッツマッハー(13年秋～)。受賞歴に三菱UFJ信託音楽賞(09年、アルミンク指揮)、ミュージック・ベンクラブ音楽賞(09年、ブリュッヘン指揮)等。2012年、創立40周年を迎えた。

公式ホームページ <http://www.njp.or.jp/> 公式Twitter @newjapanphil

公式 Facebook <http://www.facebook.com/newjapanphil>

浄瑠璃 ● 竹本駒之助 人間国宝

淡路出身。1949年竹本春駒に入門、竹本駒之助を名乗る。1970年竹本越路大夫門人となる。1980年重要無形文化財「義太夫節」総合指定保持者認定。1996年度第26回モビール音楽賞。1999年重要無形文化財保持者(個人)認定。2003年春、紫綬褒章。2008年秋、旭日小綬章。「人間国宝女流義太夫「竹本駒之助の世界」」日本伝統文化振興財団全11枚組(2009年度第64回文化庁芸術祭賞レコード部門優秀賞受賞)。

三味線 ● 鶴澤津賀寿

東京都出身。1984年竹本駒之助に入門、三味線を四代目野澤錦糸に師事。1986年駒之助の義母鶴澤三生の幼名を継ぎ、初舞台。鶴澤重輝の預かり弟子となる。1996年度第47回芸術選奨文部大臣賞新人賞(古典芸術部門)、1997年度第11回清茶会奨励賞、1999年度第4回ビクター財団賞「奨励賞」(現、日本伝統文化振興財団賞)等。2009年重要無形文化財「義太夫節」総合指定保持者認定。

合唱 ● JAPAN CHORUS FORCE-C

声楽家でもあり指揮者でもある大貫浩史の呼び掛けによって活動をするプロ声楽家集団。オペラ部門-O、現代曲部門-C、学校部門-S、アンサンブル部門-E等に分類され、豊富な人材の中からその仕事に合った1～200人のメンバーで随時構成される。受賞歴のある歌手も多数在籍。アマチュアとの共演も積極的に行う。誕生から間もないJCFだが、東京・関東を中心として、確かな技術を武器に活動を始めている。